

回覧

桜地区防災ニュース「きらら」

平成30年 6月号
発行責任者
桜地区自主防災協議会
桜地区連合自治会



自主防災



災害が発生すると、多くの方が「災害は怖い」「何か対策を講じておかなければ…」と思うものですが、時間が経つにしたがって、その気持ちも薄れてしまいます。また、災害が起きても、「きっと誰かが助けてくれる」「行政が何とかしてくれるはずだ」と考えている人も多いでしょう。

災害が発生すれば、行政の防災関係機関は住民の命を守るために活動・対策を実施します。しかし、防災関係機関の人手は限られており、また、交通や通信が混乱することから、災害による被害の規模が大きいほど、救助の手がまわらなくなる可能性があり、行政による支援（公助）には限界があります。

災害が発生したら、「自分の身は自分で守る（自助）」が原則です。

このような自助努力に加え、地域住民同士の助け合う気持ちと行動（共助）が大切です。「自分たちのまちは自分たちで守る」ため、日頃から地域住民同士が力をあわせて、地域の課題の解決に向けて取り組み、災害時には被害を最小限に食い止めるために協力して取り組んでいくことが重要です。

1、自主防災組織の必要性

(1) 救出救助機関の限界

平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災では、道路、鉄道、上下水道、電気、ガス、通信施設など、市民生活と経済活動を支える都市基盤施設に壊滅的な被害を与えました。

老朽木造住宅の密集した地域では多くの建物が倒壊し、火災が発生しました。倒壊家屋等の下敷きになった人を一刻も早く救出したり、火災が延焼しないうちに消火する必要があったが、消防、警察、自衛隊、行政などの防災関係機関の手が行き渡らない状況でした。



回覧							

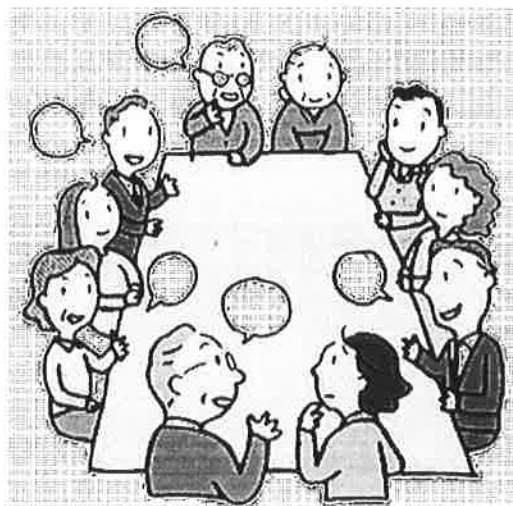
防災ニュース「きらら」は単独で回覧をお願いします。

(2) 地域住民による防災活動の必要性

阪神・淡路大震災では、防災関係機関の人手が不足する中であって、倒壊した家屋や転倒した家具の下敷きになった人たちを、隣近所の人達が力をあわせて救出し、多くの尊い命が救われました。

また、発災直後から火災が発生し、火災現場に消防が駆けつけることは不可能な状態でしたが、住民が力をあわせて延焼をくい止めた事例もありました。

災害はいつどこで発生するかわかりません。自分の命だけでなく、家族、隣人、友人など大切な人の命を被害から守るためにも、日頃から地域住民同士が力をあわせて防災対策に取り組むことが大切です。



2、自主防災隊の平常時の活動



「自分達のまちは自分達で守る」ためには、「自主防災組織をつくれれば十分」というものではありません。

日頃から活動を継続してこそ、災害時においても地域の力が発揮されます。

(1) 防災隊長の役割と重要性

災害時には、地域住民の安全を確保し、被害を最小限に食い止めるため、自ら率先して行動し指導することが求められます。また、隊長を補佐する人の存在も重要です。若者や女性など地域の様々な人達の協力を得るようにしましょう。

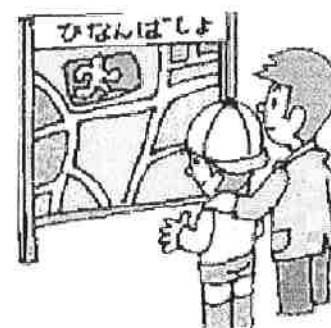


(2) 防災訓練・防災フェスタ

防災避難訓練：9月2日（日） 防災フェスタ：12月1日（土） 各詳細は後報

地域ぐるみで実施をしている「防災非難訓練」「防災フェスタ」などは、防災関係機関の協力を得ながら、実践的な防災訓練を計画し実施をしています。

災害に備えた様々な啓発活動には積極的に参加しましょう。



三重県防災危機管理部

「自主防災リーダーハンドブック」より抜粋